

令和 6 年度

授業シラバス・
年間指導計画

地歴・公民
(3 年)

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	日本史探究（日本史探究）	3	教科書『詳説 日本史』（日探 705）山川出版社

学習のねらい	我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。 学習の到達目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
--------	---

授業形態・アドバイス等	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現したりする力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第10章 幕藩体制の動機	幕府・諸藩の窮乏や百金一揆などの史料から情報を読み取り、三大改革や田沼の幕政策の愚見について理解している。 政治経済と文化の関係などに着目して19世紀初期の経済や文化について理解している。	幕藩体制の動機と文化の展開の関連について、諸資料から読み取れる情報をもとに考察し、表現している。 国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動機と諸藩の動向について考察し、表現している。	幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や幕府・諸藩の政策の変化について、主体的に追究しようとしている。 近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性についてつながりを見出そうとしている。
	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	政治・経済の変化と思想への影響などに着目して幕藩体制の崩壊と新政権の成立と中央集権化について理解している。 諸資料をもとに自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定・国会開設にいたる過程を理解している。	日本が直面していた課題を踏まえ、幕末維新期の日本の課題を考察し、表現している。 藩制度の改革が地域社会にもたらした変化やヨーロッパ諸国との関係などについて考察し、表現している。	幕末の政治動乱の過程を考察し、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
	第13章 近代国家の展開 第14章 近代の社会と生活	日清戦争から第一次世界大戦にいたる過程について諸資料をもとに理解している。 産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会においておきた社会問題について理解している。	大戦中の日本の動向を踏まえ、アジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたかを考察し、表現している。 都市の発達や生活の変化など地域社会の変容について多角的に考察し、表現している。	対外的な戦争が日本の近代化においてどのような意味をもったかについて考察し、追究しようとしている。 明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することにより、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。
	第15章 恐慌と第二次世界大戦	国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、恐慌と国際関係について理解している。 戦争の推移と国民生活の影響などに着目して、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。	満州事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などについて多角的・多面的に考察し、表現している。 戦争が拡大した理由について、日本における全体主義的な国家体制の進展について考察し根拠を示して表現している。	満州事変や国内の国家改進黨運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。 日中戦争から太平洋戦争にいたる過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。
後期	第16章 占領下の日本 第17章 高度経済成長の時代 第18章 激動する政界と日本	占領政策の転換による日本の政治や経済の変化について史料から読み取り、サンフランシスコ平和条約調印による日本の主権回復の意義について理解している。 冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目し、日本の経済成長や高度成長期の国民生活の変化について理解している。	戦後の諸改革が連合国の対日占領政策に基づくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ、実施されたことについて考察し、表現している。 日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多角的・多角的に考察し、その結果を表現している。	55年体制の歴史的意義や保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。
備考				

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	日本史研究（日本史研究）	1	教科書『詳説 日本史』（日探705）山川出版社 『新詳日本史』（浜島書店）

学習のねらい	我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。 学習の到達目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。
--------	---

授業形態・アドバイス等	日本史探究の授業と連携しながら、各クラス（講座）で行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的條件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、随資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や遠近とのつながりなどに基き、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい学習の環境を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを養う。
育った生徒像（資質・能力）との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 競争 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発表 生徒自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 日本文化のあけぼの	白石器文化・縄文文化・弥生文化の成立と琵琶王太王との影響に注目して理解している。	考古資料をもとにして、旧石器文化から弥生時代までの生活について考察し、表現している。	原始の各文化について、その特色を明らかにしようとしている。
	第2章 古墳とヤマト政権	貴族の形成、古墳文化、推古天皇らの政治運営や飛鳥文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに基き、理解している。	中国の歴史書や国内の史料に基づいて日本と中国大陸や朝鮮半島との関係から、当時の日本の様子について考察し、表現している。	中国大陸・朝鮮半島との関係などに基き、本朝時代や推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 律令国家の形成	律令体制の成立とその展開について、隋・唐など中国王朝との関係や文化の影響などに基き、理解している。	律令体制に基づく土地制度や盛唐文化の影響を受けた天平文化について考察し、表現を示して表現している。	平城京の造営と奈良時代の政治の動向に注目し、律令体制の展開に明する。
	第4章 貴族政治の展開	律令体制の受容と摂関政治と国風文化についてその時世を理解している。	国際関係の強化や浄土信仰などに基き、平安時代の政治や文化について考察し、表現している。	平安時代の地方の動向が政治や社会に与えた影響を明らかにしようとしている。
後期	第5章 院政と武士の躍進	貴族社会や土地制度の受容などをもとに、随資料を調べ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。	武士の自衛の要請や土地制度の仕組みを考察し、古代から中世への時代の転換について、表現を示して表現している。	中世社会の特色について時代を遡る限りで表現し、追究しようとしている。
		鎌倉時代から様々な情報を読み取り、武士の政治躍進について理解している。	武士の土地支配の持つ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。	古代との比較などを通して、中世の特色を追究しようとしている。

	第6章 武家政治の成立 第7章 武家政治の成長	- 史料から鎌倉幕府と室町幕府の時代やその時代の文化について理解している。 - 没後の活動や没後の文化について文化の発展や没後の文化の発展などを関連付けて理解している。	- 武家と公家の二元支配と両者に開く文化の発展について考察し、関係性を示して表現している。 - 戦国大名による富国強兵に留意し、戦国政治の特色について史料から考察し、表現している。	- 宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。 - 室町時代に成立した村の自治的運営が戦国時代における自治とどのように異なるかを主体的に追究しようとしている。
	第8章 近世の幕府は 第9章 幕府体制の成立と展開	- 幕府体制下の支配体制や時局的身分秩序の形成に関する史料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 - 幕府の発展と文化の担い手に注目し、17世紀の文化と時局などについて、史料を読み取り、理解している。	- 戦国政治の幕府系の日々や、ヨーロッパの政治がアジアに与えた影響などについて、多角的・多面的に考察し、表現している。 - 戦国時代から明治時代にかけての幕府を踏まえ、幕府の発展がどのように変化したのかを考察し、表現している。	- 幕府体制が成立する過程における幕府の展開について考察し、主体的に追究しようとしている。 - 近世前期における交通・流通の発達や幕府の発展などの背景について、その推移や展開を明らかにしようとしている。
前期	第10章 幕府体制の崩壊	- 幕府の崩壊の要因や百姓・士族などの史料から情報を読み取り、大改革や幕府の崩壊の要因について理解している。 - 幕府崩壊と文化の発展などに留意して、19世紀前期の幕府や文化について理解している。	- 幕府体制の崩壊と文化の発展の関連について、史料から読み取れる情報をもとに考察し、表現している。 - 幕府崩壊の要因や影響などに留意して、幕府政治の崩壊と幕府の発展について考察し、表現している。	- 幕府体制下の社会・経済の仕組みの変化や幕府・幕府の改革や変化について、主体的に追究しようとしている。 - 近世前期に形成された文化と近代以降の文化との関係性についてつながりを見出そうとしている。
	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	- 政治・経済の発展と幕府への影響などに留意して幕府体制の崩壊と幕府の成立と幕府の発展について理解している。 - 幕府体制をもちに自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定・国会開設にいたる過程を理解している。	- 日本が直面していた課題を踏まえ、幕府崩壊後の日本の展開を考察し、表現している。 - 幕府体制の改革が幕府社会にもたらした変化やヨーロッパ諸国との関係などについて考察し、表現している。	- 幕府の政治体制の過程を考察し、近代の幕府へのつながりを主体的に見出そうとしている。 - 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、幕府政治の崩壊がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
	第13章 近代国家の展開 第14章 近代の社会と文化	- 幕府崩壊から第一次世界大戦にいたる過程について史料をもとに理解している。 - 幕府崩壊の要因について適切に情報を読み取り、幕府社会においておきた社会問題について理解している。	- 幕府崩壊の日本の展開を踏まえ、アジア近隣諸国が日本の対外政策をどのように受け止めたかを考察し、表現している。 - 幕府の発展や生活の変化など幕府社会の発展について多角的に考察し、表現している。	- 幕府の政治体制の過程を考察し、近代の幕府へのつながりを主体的に見出そうとしている。 - 幕府の文化に開く幕府と幕府の発展を考察することにより、幕府文化の特色を主体的に追究しようとしている。
	第15章 幕府と第一次世界大戦	- 幕府社会やアジア近隣諸国との関係に留意して、幕府と幕府関係について理解している。 - 幕府の発展と幕府生活の発展などに留意して、幕府体制の崩壊と第二次世界大戦の幕府について理解している。	- 幕府社会や第一次世界大戦、国内での幕府の政治体制の展開などについて多角的・多面的に考察し、表現している。 - 幕府が崩壊した理由について、日本における幕府体制の国家体制の崩壊について考察し、関係性を示して表現している。	- 幕府社会や国内の幕府政治体制の展開を考察することを通じて、幕府の政治体制がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。 - 幕府崩壊から第一次世界大戦にいたる過程や幕府の崩壊を考察することを通じて、第二次世界大戦の幕府関係について主体的に課題を追究しようとしている。
	第16章 占領下の日本 第17章 幕府体制の崩壊の時代 第18章 幕府体制の崩壊と日本	- 幕府体制の崩壊による日本の政治や経済の発展について史料から読み取り、サンフランシスコ平和条約締結による日本の主権回復の意義について理解している。 - 幕府やグローバル化の進展の影響などに留意し、日本の幕府体制や幕府体制の崩壊の要因について理解している。	- 幕府体制の崩壊が幕府の対日占領政策に与えた影響に、幕府に対する日本国民の反響に与えられつつ、幕府体制の崩壊について考察し、表現している。 - 幕府体制の崩壊を乗り越えて幕府体制となった要因について多角的・多面的に考察し、その結果を表現している。	- 幕府体制の崩壊の意義や幕府体制の崩壊の崩壊を考察することを通じて、幕府体制の崩壊について主体的に課題を見出そうとしている。 - 幕府体制の崩壊の崩壊において日本がどのような役割を果たしたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。
後期				

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	日本史考察（日本史考察）	2	教科書『詳説 日本史』（日経705）山川出版社 『新詳日本史』（浜島書店）

学習のねらい	我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代日本の課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。 学習の到達目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
--------	---

授業形態・アドバイス等	日本史探究の授業と連携しながら、各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて日本の歴史事象について多面的に考察を行います。
-------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる能力を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい力（資質・能力）との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力	・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 授業 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権	旧石器文化・縄文文化・弥生文化の成立と変遷を大枠との関係に着目して理解している。 新石器文化、古墳文化、推古天皇の政治体制や天皇文化について、中国大陸・朝鮮半島との関連などに着目して理解している。	考古資料をもとに、旧石器文化から弥生時代までの生活について考察し、表現している。 中国の歴史書や国内の史料に基づいて日本と中国大陸や朝鮮半島との関係から、当時の日本の様子について考察し、表現している。	原始の各文化について、その特色を明らかにしようとしている。 中国大陸 朝鮮半島との関係などに着目して、古墳時代や推古朝の政治や文化の展開について、の興味を主体的に探究しようとしている。
	第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開	律令体制の成立とその展開について、神・皇など中世王朝との関係や文化の移転などに着目し、理解している。 律令体制の要素と政治制度と貴族文化についてその特徴を理解している。	律令体制に基づく土地制度や貴族文化の影響を受けた平安文化について考察し、推察を示して表現している。 国際関係の変化や浄土信仰などに着目し、平安時代の政治や文化について考察し、表現している。	平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目し、律令体制の展開に関する課題を主体的に探究しようとしている。 平安時代の地方の動向が政治や社会に与えた影響を明らかにしようとしている。
	第5章 院政と武士の興隆	貴族社会や土地制度の変容などをもとに、諸資料を調べ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。	武士の台頭の背景や土地制度の仕組みを考察し、古代から中世への時代の転換について、推察を示して表現している。 武士の土地支配の持つ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。	貴族社会の特色について時代を遡る関を表現し、追究しようとしている。 古代との比較などを通して、中世の特色を追究しようとしている。

	第6章 幕府政治の成立 第7章 幕府政治の成長	・資料館から鎌倉幕府と室町幕府の時代やその時代の文化について理解している。 ・市民の活動や庶民の文化について文化の地方伝播や藩閥大衆の登場などを認識付けて理解している。	・民衆と公家の二重支配と両者に限られる文化の特徴について考察し、特異性を示して表現している。 ・戦国大名による富国強兵策に着目して、領国統治の特色について館資料から考察し、表現している。	・宋・元などコロンシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。 ・室町時代に成立した村の自治的運営が現代社会における自治などのように異なるかを主体的に追究しようとしている。
	第8章 近世の幕府 第9章 幕府体制の崩壊と展開	・幕府体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する館資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の側面を理解している。 ・幕府の発達と文化の担い手に着目して、17世紀の文化と特徴などについて、史料を読み取り、理解している。	・幕府体制の発展と文化の展開の動向について、館資料から読み取れる情報をもとに考察し、表現している。 ・戦乱のない時代がもたらした発展を踏まえた人々の意識がどのように変化したのかを考察し、表現している。	・幕府体制が確立する過程における様々な困難について考察し、主体的に追究しようとしている。 ・近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの側面について、その発展や展開を明らかにしようとしている。
進展	第10章 幕府体制の崩壊	・幕府・藩閥の弱体化や西遊一揆などの史料から情報を読み取り、三大改革や明治の幕府崩壊の動向について理解している。 ・政治経済と文化の動向などに着目して19世紀初期の経済や文化について理解している。	・幕府体制の崩壊と文化の展開の動向について、館資料から読み取れる情報をもとに考察し、表現している。 ・藩閥体制の崩壊と影響などに着目して、幕府政治の崩壊と幕府の動向について考察し、表現している。	・幕府体制下の社会・経済の仕組みの文化や幕府・藩閥の崩壊の動向について、主体的に追究しようとしている。 ・近世前期に形成された文化と近代以降の文化との関係性についてつながりを見出そうとしている。
	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	・政治・経済の動向と幕府への影響などに着目して幕府体制の崩壊と明治の成立と中央集権化について理解している。 ・館資料をもとに自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定・開国勅諭について理解している。	・日本が直面していた課題を踏まえ、幕府崩壊後の日本の課題を考察し、表現している。 ・明治憲法の制定が地産社会にもたらした文化やヨーロッパ諸国との関係などについて考察し、表現している。	・幕府の政治動向の過程を考察し、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。 ・自由民権運動の展開過程を考察し、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。
	第13章 近代国家の展開 第14章 近代の社会と生活	・日清戦争から第一次世界大戦にいたる過程について館資料をもとに理解している。 ・産業革命の進展について適切に情報を読み取り、地域社会において起きた社会問題について理解している。	・大戦中の日本の動向を踏まえ、アジア近隣諸国が日本の海外勢力などのように受けとめたかを考察し、表現している。 ・都市の発達や生活の変化など地域社会の発展について多角的に考察し、表現している。	・対外的な戦争が日本の近代化においてどのような意味をもったかについて考察し、追究しようとしている。 ・明治期の文化に限らず政府と国民の動向を考察することにより、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。
	第15章 危機と第一次世界大戦	・国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、協約国と枢軸国について理解している。 ・戦争の経緯と国民生活の影響などに着目して、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。	・満洲事変などの海外政策、国内での軍部の政治的進出などについて多角的・多面的に考察し、表現している。 ・戦争がもたらした理由について、日本における主体としての国家体制の発展について考察し、表現している。	・満洲事変や国内の国家改進黨の展開を考察することを通じて、軍部の政治的進出がもたらした問題を主体的に追究しようとしている。 ・日清戦争から大正戦争にいたる過程や日本軍の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦の国際関係について主体的に追究しようとしている。
	第16章 占領下の日本 第17章 高度経済成長の時代 第18章 激動する世界と日本	・占領政策の転換による日本の政治や経済の文化について史料から読み取り、サンフランシスコ平和条約締結による日本の主権回復の意義について理解している。 ・冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目して、日本の経済成長や高度成長期の国民生活の変化について理解している。	・戦後の教育改革が連合国の対日占領政策に基づくとともに、戦争に対する日本国民の反省に表れたことについて考察し、表現している。 ・日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	・55年体制の歴史的意義や保守体制の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。 ・冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。
備考				

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	世界史探究（世界史探究Ⅱ）	3	教科書『詳説 世界史』（世説701）山川出版社

学習の ねらい	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に必要の公民としての資質・能力を育成することを目指す。 ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
------------	---

授業形態・アドバイス等	各クラスで行う一斉授業です。通宣グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒力（資質・能力）との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察、判断する力 ・構想したことを議論・表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査、課題、ペアワーク等	定期考査、レポート、発表等	課題取組状況、ノートやレポートの記述、授業中の発言、生徒自己評価と相互評価等

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第12章 産業革命と現代西洋革命 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	・産業革命と現代西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開や国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と独立などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成や国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と独立などを歴史的に理解している。	・大西洋沿岸諸地域の動向や世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、地域特性などのつながりなどに着目し、主題を特定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、産業革命や現代西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの発展、南北アメリカ大陸の歴史や、労働力の移動を考察する能力、イギリスの優位の時期、アジア諸国の歴史の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「国民国家と近代社会の形成」や「世界市場の形成とアジア諸国の歴史」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	

第14章 アジア諸地域の動向 第15章 帝國主義とアジアの民族運動	・第二次産業革命と帝國主義擴張の戦争。アジア諸國の反革などを基に、世界分割の高潮とナショナリズムの高まりを兩面的に理解している。	・列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、読資料を比較したり関連づけたりして読み解き、世界展開の傾向的な変化、列強の帝國主義政策の共通点と相違点、アジア諸國のナショナリズムの情勢などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「アジア・アフリカ諸國の滅亡再編と世界分割の進行」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
第16章 第一次世界大戦と世界の変革 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆國の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムや、世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを基に、第一次世界大戦の原因と諸地域の有事、国際関係の緊密化と対応と兩面的に理解している。	・第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向と世界恐慌と国際協定体制の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、読資料を比較したり関連づけたりして読み解き、第一次世界大戦後の国際協定体制の性格、アメリカ合衆國の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの動向や、世界恐慌に対する諸國家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の变化の動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「第一次世界大戦の成敗と諸地域の変革」や「国際協定体制の形成と第二次世界大戦」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界	・無日安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸國の独立と地域振興の動き、平和経済と多極化の進展、先進國の経済成長と南北問題、原子力の利用などを基に、紛争解決の取り組みと展開、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。	・国際関係の形成と紛争、国際競争の展開と経済格差、科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、読資料を比較したり関連づけたりして読み解き、国際協定と国際競争との共通点と相違点、先進國による経済援助や経済の成長がもたらした地域の発展、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の变化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「冷戦の性格化と国際制度」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。 ・「冷戦の終結・終結と経済のグローバル化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
備考			

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教科書
地理・歴史科	世界史研究（世界史研究）	1	教科書『詳説 世界史』（巻701）山川出版社

学習のねらい	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、地域、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に論議したりする力を養う。 ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
--------	--

授業形態・アドバイス等	「世界史探究Ⅱ」と相互に関連させながら、各クラスの授業選択者で行う一斉授業です。通宣グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、教科書を読んで、授業に参加してください。
-------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、地域、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に論議したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒量（消費・能力）との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察、判断する力 ・構想したことを論議、表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	この授業単体での考察は実施せず「世界史探究Ⅱ」と併せて評価する。 課題 観察 ペアワーク等	この授業単体での考察は実施せず「世界史探究Ⅱ」と併せて評価する。 レポート 発表等	課題取組状況 ノートやレポートの記述、授業中の発言 生徒自己評価と相互評価等

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む
前期	第12章 産業革命と欧米列強の海外進出 第13章 イギリスの覇位と欧米列強の海外進出	・産業革命と欧米列強の海外進出、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開や経済的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と独立運動などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成や国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と独立運動を歴史的に理解している。	・大英帝国や欧米列強の海外進出や世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や要因、結果や影響、相互の関連、地域性相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、産業革命や欧米列強の海外進出の意義や意義、自由主義とナショナリズムの特質、南北アメリカ大陸の発展や、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇位の理由、アジア諸国の発展の地縁的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「国民国家と近代社会の形成」や「世界市場の形成とアジア諸国の発展」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。

第14章 アジア・アフリカ地域の動向 15章 帝国主義とアジアの民族運動	・第二次産業革命と帝国主義論議の発展、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを概論的に理解している。	・列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、読資料を比較したり関連づけたりして読み解き、世界経済の構造的な変化、列強の台頭と民族運動の進展と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	「アジア・アフリカ諸国の統治機構と世界分割の進行」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
第16章 第一次世界大戦と世界の変革 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムや、世界協同とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動向などを基に、第一次世界大戦の暴動と植民地の変革、国際関係の発展と対立を概論的に理解している。	・第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向と世界恐慌と国際協同体制の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、読資料を比較したり関連づけたりして読み解き、第一次世界大戦後の国際協同体制の形成、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの発展や、世界恐慌に対する諸国史の対応策の共通点と相違点、ファシズムの台頭、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「第一次世界大戦の暴動と植民地の変革」や「国際協同体制の形成と第二次世界大戦」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界	・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、北米諸国の経済成長と南北問題、原子力の利用などを基に、紛争解決の取り組みと課題、世界の公正の取り組みと課題、国際協同体制の発展と課題を理解している。	・国際機構の形成と紛争、国際戦争の展開と経済格差、科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、読資料を比較したり関連づけたりして読み解き、国際協同と国際連合との共通点と相違点、史実面による紛争解決や経済の成長が見られた地域の特徴、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の高度化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「冷戦の世界化と国際協同体制」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。 ・「冷戦の要因・終結と経済のグローバル化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。
総論	この授業単体での学習は要諦を「世界史探究Ⅱ」と併せて評価する。		

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名(校内名称)	単位数	教科書
地理・歴史科	世界史考察(世界史考察)	2	教科書『詳説 世界史』(世経701) 山川出版社

学習のねらい	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛憎、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
--------	--

授業形態・アドバイス等	世界史探究日と相互に関連させながら、各クラスの世界史選択者で行う一斉授業です。定期考査は実施しません。小テストや演習問題、課題やレポートの取り組み状況から総合的に評価をします。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。2年次の履修範囲も含めた、世界史探究日の学習内容の補足やまとめを中心に行います。
-------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛憎、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒量(資質・能力)との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察、判断する力 ・構想したことを議論・表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	小テスト 課題 等	レポート 発表 課題 等	課題取り組み状況 生徒自己評価と相互評価 等

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 諸地域世界の歴史的特質の形成(古代) 2 諸地域の交流・再編(中世・近世)	古代から現代までの各時代の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	古代から現代までの各時代の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	古代から現代までの各時代の特質や、諸地域間の交流再編、統合・変容、現代の課題といった学習内容に対して、見過しをもって学習に取り組むようとしている。
後期	3 諸地域の統合・変容(近代) 4 地球世界の課題(現代)			
備考				

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理歴史	地理探究	3	新詳 地理探究（帝国書院） 新詳 高等地図（帝国書院） 新編 地理資料 2023（とうほう） データブックオブザワールド 2023（二宮書店） 地理用語集（山川出版）

学習のねらい	地理探究の学習によって身につけた資質・能力をもとに、社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
--------	--

授業形態 アドバイス など	授業形態は、各クラスでの一斉授業となります。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。積極的に参加することで思考力や表現力を養いましょう。定期的に課題も提出してもらいます。年に3回定期考査を実施する予定です。
---------------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や読図から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連性、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりすることができる。さらに、それらをもとに議論したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛着、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを持つことができる。
育みたい生活態度 （資質・能力）との関連	主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。	社会的現象について、地理的な見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に考察したり自らの考えを表現したりする力。	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会において、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。
主な評価方法	定期考査 観察 ペアワーク	定期考査 レポート 発表	ノートやレポートの記録 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第2章 資源と産業 6節 第3次産業	経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのようにになっているかについて理解している。	経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのようにになっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	第3次産業について、よりよい社会の実現を視野にそめてみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 交通・通信と観光、貿易 1 交通・通信 2 観光 3 貿易と経済圏	交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規制性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規制性、傾向性や、関連する地球的問題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	交通・通信、観光について、よりよい社会の実現を視野にそめてみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	第4章 人口、村落・都市 1 人口 2 人口問題 3 村落と都市 4 都市・居住問題	人口、都市・村落などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規制性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規制性、傾向性や、関連する地球的問題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	人口、村落・都市について、よりよい社会の実現を視野にそめてみられる課題を主体的に追究しようとしている。
後期	第5章 生活文化、民族と宗教 1 衣食住 2 民族・宗教と民族問題 3 国家の領域と領土問題	生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規制性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規制性、傾向性や、関連する地球的問題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	生活文化、民族・宗教について、よりよい社会の実現を視野にそめてみられる課題を主体的に追究しようとしている。

注記	第2部 現代世界の地理的考察 第1章 現代世界の地域区分 1 地域区分 第2章 現代世界の諸地域 1 中国 2 韓国 3 ASEAN 諸国 4 インド 5 西アジアと中央アジア 6 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 7 EU 諸国	いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地理的課題などについて整理している。 工業化や経済発展が著しく、世界経済に大きな影響を与えている中国について、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して整理している。 日本と地理的な距離が近く、急速な経済成長を遂げている韓国について、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して整理している。 古くから産業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいるASEAN 諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して整理している。 近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて整理している。 自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特性もある西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を整理している。 アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を整理している。 二度の世界大戦を機に EU を中心とした政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など地域	現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や要素などに着目して、主題を絞定し、地域的特色や地理的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。 工業化や経済発展が著しく、世界経済に大きな影響を与えている中国について、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 日本と地理的な距離が近く、急速な経済成長を遂げている韓国について、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 古くから産業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいるASEAN 諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。 自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特性もある西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を多面的・多角的に考察し、表現している。 アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を、多面的・多角的に考察し、表現している。 二度の世界大戦を機に EU を中心とした政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など地域	現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。 中国について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。 韓国について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。 ASEAN 諸国について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。 インドについて、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。 西アジアと中央アジアについて、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。 北アフリカとサハラ以南アフリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。 EU 諸国について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。
-----------	---	---	---	--

		を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	
	8 ロシア	かつて社会主義国だったが、1990年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めているロシアについて、産業や工業を国家体制の変化に関連づけて理解している。	かつて社会主義国だったが、1990年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めているロシアについて、産業や工業を国家体制の変化に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。	ロシアについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる問題を主体的に追究しようとしている。
	9 アメリカ合衆国	移民国家としての多様性を持ち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	移民国家としての多様性を持ち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	アメリカ合衆国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる問題を主体的に追究しようとしている。
	10 ラテンアメリカ	かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっているラテンアメリカについて、文化や産業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて理解している。	かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっているラテンアメリカについて、文化や産業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。	ラテンアメリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる問題を主体的に追究しようとしている。
	11 オーストラリアとニュージーランド	南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられるオーストラリアとニュージーランドについて、二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特長性を理解している。	南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられるオーストラリアとニュージーランドについて、二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特長性を、多面的・多角的に考察し、表現している。	オーストラリアとニュージーランドについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる問題を主体的に追究しようとしている。
	第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 1 将来の国土の在り方 2 持続可能な日本の国土像の探究	現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。	現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。	持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとしている。
備考				

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 理数科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理歴史	地理探究	4	新詳 地理探究（帝国書院） 新詳 高等地図（帝国書院） 新編 地理資料 2023（とうほう） データブックオブザワールド 2023（二宮書店） 地理用語集 （山川出版）

学習のねらい	地理探究の学習によって身につけた資質・能力をもとに、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
--------	---

授業形態 アドバイス など	授業形態は、各クラスでの一斉授業となります。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。積極的に参加することで思考力や表現力を養いましょう。定期的に課題も提出してもらいます。年に5回定期考査を実施する予定です。
---------------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や鑑賞料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べよとめる技能を身に付けることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりすることができる。さらに、それらをもとに議論したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛憎、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを養うことができる。
育てたい生徒像 （資質・能力） との関連	主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。	社会的事象について、地理的な見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に考察したり自らの考えを表現したりする力。	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会において、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。
主な評価方法	定期考査 観察 ペアワーク	定期考査 レポート 発表	ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1節 農林水産業 1 農業の発展と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 世界と日本の水産業	世界の農林水産業の現状について、自然環境とどのように関わっているかについて理解している。	農林水産業の分布についての背景を考察することができる。	持続可能な農林水産業のあり方について、課題を主体的に追究しようとしている。
	2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題	食料の分配の世界的な偏りや、飢餓や食糧の原因について理解している。	世界の食料問題の原因や背景について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。	飢餓の解決において必要な取り組みを調べたり、発表したりすることができる。
	3節 エネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用	世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて理解している。	エネルギーや電力についての課題を考察することができる。	持続可能な社会に向けて、今後のエネルギーや電力のあり方について探究しようとしている。
	4節 資源・エネルギー問題 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題について、社会的背景をもとに理解している。	資源・エネルギー問題について持続可能な社会の構築のために必要なことを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会の実現を視野にそとでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	5節 工業 1 工業の発展と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工業の知識産業化とスタートアップ企業 6 日本の工業	工業はどのように発展し、現在とはどのような分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて理解している。	グローバルな視点に立ち、今後の工業の発展にはどのような取り組みが必要かを考察し、表現することができる。	持続可能な社会の構築に向けて、今後の工業のあり方について主体的に追究しようとしている。
	第2章 資源と産業 6節 第3次産業	経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのように変わっているかについて理解している。	経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのように変わっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	第3次産業について、よりよい社会の実現を視野にそとでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 交通・通信と観光、貿易 1 交通・通信 2 観光 3 貿易と経済圏	交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規制性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規制性、傾向性や、関連する地球規模課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	交通・通信、観光について、よりよい社会の実現を視野にそとでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	第4章 人口、村落・都市 1 人口 2 人口問題 3 村落と都市 4 都市・居住問題	人口、都市・村落などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規制性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規制性、傾向性や、関連する地球規模課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	人口、村落・都市について、よりよい社会の実現を視野にそとでみられる課題を主体的に追究しようとしている。

	第5章 生活文化、民族と宗教 1 衣食住 2 民族・宗教と民族問題 3 国家の領域と領土問題	生活文化、民族・宗教などに 関わる諸事象をもとに、それ らの事象の空間的な地理性、 傾向性や、民族、領土問題の 現状や要因、解決に向けた取 り組みなどについて理解して いる。	生活文化、民族・宗教などに 関わる諸事象について、場所 の特徴や場所の結びつきな どに着目して、主題を設定し、 それらの事象の空間的な地 理性、傾向性や、関連する地 理的要素の要因や動向など を多面的・多角的に考察し、 表現している。	生活文化、民族・宗教につい て、よりよい社会の実現を視 野にそぐてみられる課題を主 体的に追究しようとしている。
--	--	--	--	---

追加	第2部 現代世界の地理的考察 第1章 現代世界の地域区分 1 地域区分 第2章 現代世界の諸地域 1 中国 2 韓国 3 ASEAN 諸国 4 インド 5 西アジアと中央アジア 6 北アフリカとサハラ以南のアフリカ	いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地帯的諸相などについて整理している。 工業化や経済発展が著しく、世界経済に大きな影響を与えている中国について、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。 日本と地理的な距離が近く、急速な経済成長を遂げている韓国について、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。 古くから農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいるASEAN 諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。 近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて整理している。 自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特殊性もある西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を理解している。 アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を理解している。	現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や要素などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地帯的諸相などを多面的・多角的に考察し、表現している。 工業化や経済発展が著しく、世界経済に大きな影響を与えている中国について、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 日本と地理的な距離が近く、急速な経済成長を遂げている韓国について、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 古くから農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいるASEAN 諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。 自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特殊性もある西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を多面的・多角的に考察し、表現している。 アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を、多面的・多角的に考察し、表現している。	現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそとてみられる課題を主体的に追究しようとしている。 中国について、よりよい社会の実現を視野にそとてみられる課題を主体的に追究しようとしている。 韓国について、よりよい社会の実現を視野にそとてみられる課題を主体的に追究しようとしている。 ASEAN 諸国について、よりよい社会の実現を視野にそとてみられる課題を主体的に追究しようとしている。 インドについて、よりよい社会の実現を視野にそとてみられる課題を主体的に追究しようとしている。 西アジアと中央アジアについて、よりよい社会の実現を視野にそとてみられる課題を主体的に追究しようとしている。 北アフリカとサハラ以南アフリカについて、よりよい社会の実現を視野にそとてみられる課題を主体的に追究しようとしている。
-----------	--	---	---	--

7 EU 諸国	二度の世界大戦を機に EU を中心とした政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	二度の世界大戦を機に EU を中心とした政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	EU 諸国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
8 ロシア	かつて社会主義国だったが、1990 年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めているロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連づけて整理している。	かつて社会主義国だったが、1990 年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めているロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。	ロシアについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
9 アメリカ合衆国	移民国家としての多様性を持ち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	移民国家としての多様性を持ち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	アメリカ合衆国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
10 ラテンアメリカ	かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっているラテンアメリカについて、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて理解している。	かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっているラテンアメリカについて、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。	ラテンアメリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
11 オーストラリアとニュージーランド	南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられるオーストラリアとニュージーランドについて、二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特異性を理解している。	南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられるオーストラリアとニュージーランドについて、二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特異性を、多面的・多角的に考察し、表現している。	オーストラリアとニュージーランドについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探求 1 将来の国土の在り方 2 持続可能な日本の国土像の探求	現代世界におけるこれからの日本の国土像の探求をもとに、我が国が抱える地理的な課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。	現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、価値や意義、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。	持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
備考			

令和6年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
公民	政治・経済	2	『詳述政治・経済』（実教出版） 『つかむ公共・政経』（浜島書店）

学習のねらい	・社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。（知識・技能） ・国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。（思考・判断・表現） ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を固ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。（主体的に学習に取り組む態度）
--------	---

授業形態 アドバイス など	各クラス（講座）で行う一斉授業です。授業中は、しっかりと学習内容の理解に努めてください。授業後は、しっかりと復習して次の授業に臨むことが大切です。
---------------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにしているかどうか。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かっているかどうか。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を固ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めているかどうか。
育てたい技能（資質・能力）との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察・判断する力 ・構想したことを議論・表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 ノート	定期考査 ノート 発表	課題取り組み状況 ノート提出 振り返りシート

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1部 現代日本における政治・経済の諸問題 第1編 現代日本の政治 第1章 民主政治の基本原則 第2章 日本国憲法の基本的性格 第3章 日本の政治機構 第4章 現代日本の政治 第2編 現代日本の経済 第1章 経済社会の変容 第2章 現代経済のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上	民主政治の基本原則、日本国憲法の基本原則や内容、日本の政治機構などを理解している。 近代経済の変遷、現代経済のしくみ、現代社会における福祉の向上について理解している。	民主政治の基本原則、日本国憲法の基本原則や内容、日本の政治機構などを理解したうえで、政治の本質について考察し、表現している。 近代経済の変遷、現代経済のしくみ、現代社会における福祉の向上について理解したうえで、経済の本質について考察し、表現している。	現代の政治や経済の諸問題という学習内容に対して、見通しをもって意欲的に学習に取り組もうとしている。
後期	第2部 グローバル化する国際社会の諸課題 第1編 現代の国際政治 第2編 現代の国際経済 第3編 国際社会の諸課題の探究	現代の国際政治、現代の国際経済、国際社会の諸課題について多面的・多角的に理解している。	現代の国際政治、現代の国際経済、国際社会の諸課題について多面的・多角的に理解したうえで、諸課題について考察し、表現している。	国際社会の諸課題という学習内容に対して、見通しをもって意欲的に学習に取り組もうとしている。
備考				